



エコツーリズム戦略見直しの方向性



知床エコツーリズム戦略の見直しの方向性

①「良質な自然体験の提供」に関する項目の追加

- 地域の魅力や価値を来訪者に伝えることを目的に策定される**インタプリテーション全体計画**の構成要素を念頭に、**知床の価値**や**来訪者へのメッセージ**、**望まれる体験**をエコツーリズム戦略に書き込む。（エコツーリズム戦略自体がインタプリテーション全体計画としての機能も併せ持つように見直し）
- 具体的にどのようなことを書き込むのかについては、適正利用・エコツーリズム部会にて議論することを想定している。

②「リスクマネジメント」に関する項目の追加

- 斜里町で検討中のアクティビティリスク管理と整合性を図った上で、リスク管理について書き込む。

③「利用のゾーニングとイメージ」に関する項目の追加

- 地区毎の自然環境と利用施設の状況等を踏まえたゾーニングを規定する。
- 主な利用地区や利用形態ごとの配慮事項は遺産管理計画に記載のとおりとし、これらの推進に努めることで、適正な利用としての最適化を図っていく。

インタープリテーション全体計画とは

- 「インタープリテーション」とは、国立公園や世界遺産、観光地などにおいて、地域の魅力や価値を、来訪者と地域で共有するためのコミュニケーション
- 自然環境や風景、文化財などを見るだけでも楽しめるが、それが持つ固有の価値や背後にあるストーリーを来訪者と共有することで、来訪者と地域資源との間により特別なつながりをつくることが目的
- 「インタープリテーション全体計画」の主な構成
 - ① 風景・生物・文化・歴史などの地域資源
 - ② 来訪者に共有したい地域資源をつないだメッセージ（短い文章）
 - ③ だれに、どこで、どんな体験で、どの媒体（ビジターセンター、webサイト等）で伝えるかの方法
- ヒグマとの距離をとるなど利用の心得も含んで情報発信

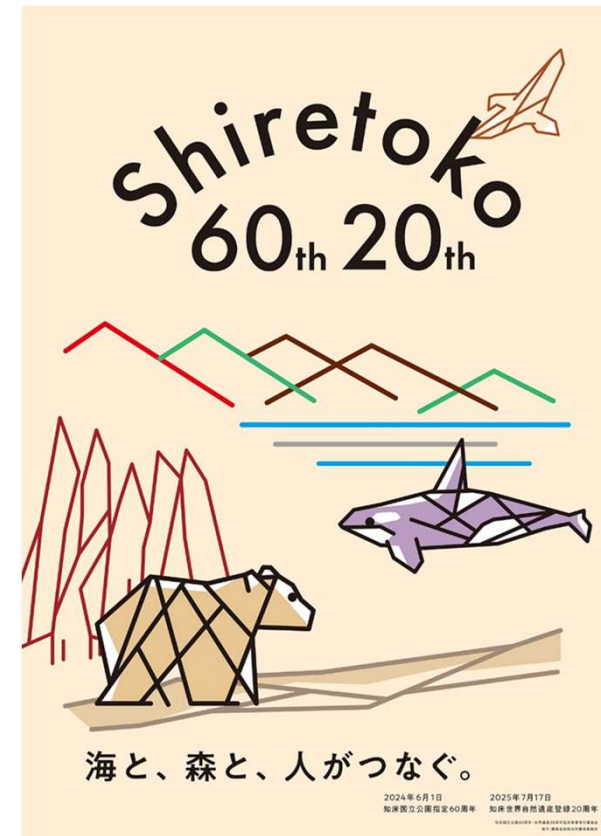
ストーリー＝価値の言語化

顕著な普遍的価値

何を大切にし、来訪者に何を伝えるのか

ix)生態系：海氷の影響を受けた海と陸の生態系の豊かなつながり

x)生物多様性：動植物ともに北方系と南方系の種が混在することによって、多くの希少種や固有種を含む幅広い生物種が生息・生育するなど、生物の多様性を維持するために重要な地域



なぜ必要か？

- 知床エコツーリズム戦略では「知床らしい良質な自然体験」の提供を目的の一つとしているが、見直しにあたって、これを改めて確認する必要があるのではないか？
- 特に人と自然の関わり、歴史や文化、漁業の営み、保全活動について整理する必要があるのではないか？
- 一昨年度の関係団体へのヒアリングにおいて、知床全体の保護と利用に関する骨格・大方針、利用の将来ビジョンを明確にすることが必要、との声があった
- 提案制度を活性化していくためにも、目指す利用の方向性を明らかにし、それに沿った提案について、参加者が連携・協働して実現を目指すことが必要ではないか？

何の役に立つのか

来訪者にとって

- 価値のストーリーに沿った知床らしい良質な自然体験により、満足度が向上
- 野生生物との距離など利用の心得を予め知ることができる

観光関係者にとって

- 知床らしさを明確に説明することができる、引き出しが増える
- 来訪者の興味・関心に応じた、知床らしい良質な自然体験の提供することで、アドベンチャートラベルなどの高付加価値型の観光を推進することができる
- 「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」において、目指す利用の方向性に基づき、地域の自主性や参加者からの提案を尊重し、科学的知見に基づいた助言を得た上で、連携・協働して実現を目指すことができる

地域社会にとって

- 地域の価値の再認識、誇りの醸成につながる
- 来訪者に地域ぐるみで価値が伝えられる
- 野生生物との距離など利用の心得を予め伝えることでトラブルを回避できる

世界遺産・国立公園にとって

- 価値の保全に対する理解を育み、持続的な利用や地域社会の発展につながる
- 世界遺産センターやVCの展示、webページ等に反映する

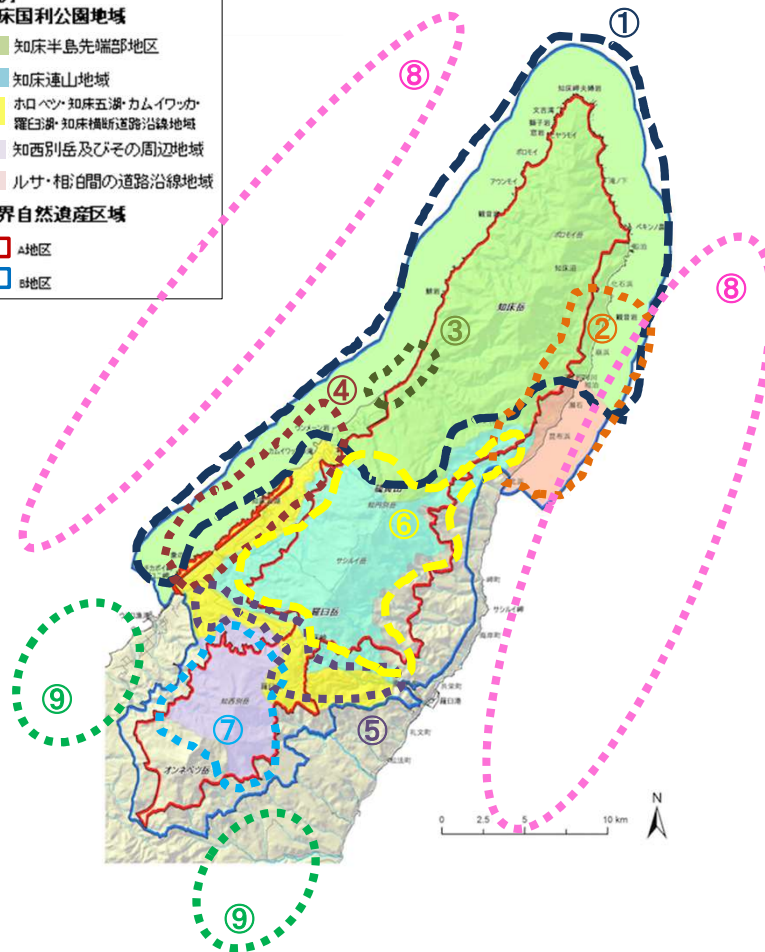
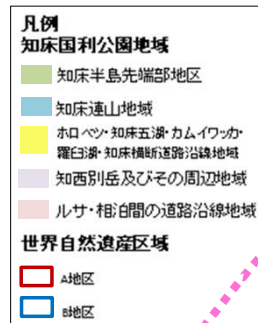
策定にあたってのお願い

- 知床で生活や仕事をされている皆さまの視点から、「知床らしさ」・「知床の価値」を教えてください
- （それらつないで）知床らしさのメッセージを一緒に考えましょう
- 来訪者に知床で体験して貰いたいことを教えてください
- 委員の皆さまにも情報の掘り出しや助言をお願いしたい



各地でワークショップを開催しますので、
ご協力をよろしくお願いいたします。

2017年～2018年度開催「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」
資料：ゾーニングとイメージ(案) より抜粋



①先端部地区全域（冒険と原生の旅）

容易にアクセスできるフィールドでのアクティビティやスポーツの登山、トレッキングとは一線を画した「冒険と原生の旅」。ヒグマとの出会いや険しい地形、荒れる海のリスクを乗り越えて、野営しながらたどり着く感動の到達感、日本離れた大風景と非日常の秘境感を提供することに特化する。旅の過程で、豊かな海を糧に生きる人々との出会いや交流も大切な思い出となる。

②羅臼側先端部海岸線ルサ～観音岩（番屋の営み、フィッシャリーズリズム）

羅臼の豊かな海を糧に、「番屋」という知床ならではの営みの場における暮らしを積極的に発信。浜に根ざして生きる人々との出会いや交流も重要な体験要素とする。

③先端部地区ルシヤ（知床の核心を見る、ワイルドライフウォッチング）

サケマスの遡上・産卵とヒグマや猛禽類などの捕食による陸と海の繋がり、世界遺産の核心を学ぶ。圧倒的なヒグマ体験。全国で爆発するクマ問題への普及啓発の場、人々を思考停止にしている恐怖の猛獣という誤解を解き、自然な生き様を知る場とする。共存の道を模索するきっかけ作りの場とする。

④ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ（多様な知床体験ニーズに応える）

観光バスやシャトルバスを利用した周遊観光から、比較的手軽なバックカントリー利用まで多様なニーズに応えることができる地域として活用していく。陳腐化させることなく差別化した知床独自の体験を提供する工夫、ヒグマ等との軋轢回避対策が求められる。

⑤羅臼湖・横断道路沿線地域（知床峠の景観を楽しむ手軽な周遊観光と羅臼湖での奥知床体験）

車両を利用した周遊観光から、2時間程度で比較的手軽な高山バックカントリー体験が可能な羅臼湖、深い森を味わうことができるボンホロ沼などを楽しむ。

⑥知床連山地域（知床を象徴する山並み、両側に海を眺む希有な山岳体験の場）

海にそそり立つ連山の稜線に到達する満足感。眼下の両側は海、はるか国後島・エトロフ島までの眺望は、他では得がたい感動を得ることができる。広大なハイマツ帯や雪田群落の高山植物も知床の山の魅力である。基本的に中級以上の登山者を対象とした山域として管理し、必要以上の整備は行わない。

⑦知西別岳及びその周辺地域

（人気の少ない知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールドとしての展開を探る）

羅臼湖入口へのアクセス方法を検討できれば、残雪期のすばらしいフィールドになり得る。根室海峡にめがけて滑り下る知西別岳から湯ノ沢までのロングダウンヒルコースは感動もの。

⑧先端部地域沿岸海域

（シャチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流水が創り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる）

ウトロ～知床岬に続く絶壁と大風景、海岸で見ることができるヒグマや猛禽類、海鳥など野生との出会いの濃さは知床ならではの。豊稔の海、根室海峡はシャチやクジラ、イルカなど大型海産哺乳類との感動の出会いの場。大型猛禽、トド、アザラシ類を対象とする冬の観光船事業も充実が望まれる。

⑨半島基部 斜里岳・海別岳山麓

（雄大な農業景観と知床ならではの背景の組み合わせは感動を呼ぶ）

斜里平野から周辺の山間野山麓部については、人気の観光地である富良野盆地周辺に比して勝るとも劣らない美しい風景を有している。また、峯浜地区の広大な牧草地とはるかに望む根室海峡・国後島の風景も実は大きな潜在性を有している。しかし、そこに欠けているのは来訪者をもてなす仕組みや人の存在、そして魅力的な「食」である。両地域で生産される畑作物や畜産物、そして知床ならではの海の幸を洒落た形で提供できる宿泊施設・レストラン等を展開し、知床の観光の新たな分野を切り開く。乗馬やスノーモービルのツーリングコースの設定など、国立公園内では難しいアクティビティの展開も可能だろう。

構成の見直し（案）

- 6. 戦略の対象
 - (1) 戦略の対象となる地域
 - (2) 戦略の対象となる活動
- 7. 守るべき知床の価値
 - (1) 自然に関する価値
 - (2) 人と自然の関わりについての価値
 - (3) 非日常性から得られる価値

—
- 8. 将来目標
 - (1) 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
 - (2) 世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供
 - (3) 持続可能な地域社会と経済の構築
- 9. 具体的方策
 - (1) 利用コントロール
 - (2) 守るべきルールの設定と指導
 - (3) 情報の発信
 - (4) ガイドの育成とガイド利用の推奨
 - (5) 文化的資産等の活用
 - (6) 利益の還元
 - (7) 施設整備
 - (8) モニタリング

- 6. 戦略の対象
 - (1) 戦略の対象となる地域
 - (2) 戦略の対象となる活動
 - (3) 戦略の対象となる来訪者
- 7. 守り、伝えるべき知床の価値
 - (1) 自然に関する価値
 - (2) 人と自然の関わりについての価値
 - (3) 非日常性から得られる価値
- 8. 良質な自然体験の提供に必要な要素
 - (1) 来訪者に伝えたいメッセージ
 - (2) 来訪者に望まれる体験
- 9. 将来目標（以下、パート2「目指す方向」として）
 - (1) 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
 - (2) 世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供
 - (3) 持続可能な地域社会と経済の構築
- (4) 利用のゾーニングとイメージ案
- 10. 具体的方策
 - (1) 利用コントロール
 - (2) 守るべきルールの設定と指導
 - (3) 情報の発信
 - (4) ガイドの育成とガイド利用の推奨
 - (5) 文化的資産等の活用
 - (6) 利益の還元
 - (7) 施設整備
 - (8) モニタリング
 - (9) リスクマネジメント